

殺菌消毒薬（特殊絆創膏を中心）

製品群No. 54

リスクの程度 の評価	A 薬理作用	B 相互作用	C 重複な副作用のおそれ	D 毒用のおそれ	E 関節・筋肉・骨格の悪化 (運動状況等)	F 効能・効果・毒物の悪化 につがおるおそれ	G 毒用方法(誤使用のおそれ)	H スイッチ 化等に伴う 使用環境の 変化	I スイッチ 化等に伴う使 用環境の変 化	J 効能効果 機能
評価点	薬理作用	併用注意	重複な副作用のおそれ	重複でないが、注意すべき副作用	重複でないが、注意すべき副作用	重複でないが、注意すべき副作用	皮膚表面の一 般消毒・防腐・ 殺菌消毒の効率・ 消毒	皮膚表面の一 般消毒・防腐・ 殺菌消毒の効率・ 消毒	皮膚表面の一 般消毒・防腐・ 殺菌消毒の効率・ 消毒	皮膚表面の一 般消毒・防腐・ 殺菌消毒の効率・ 消毒
波 圓 消毒 成分 マキユロク キュロム	「新生」マー キュロク 波圓消毒 成分	本薬は水溶 液中でオレオ ンを保護して いる。皮膚、 粘膜に塗布 すると、この オランが細菌 のSH基を有 する酵素と結 合して、これ を不活性化さ せる。これによ り、消毒効果 をあらわす。 波圓消毒、脂 肪球、脂圓牛乳 などを静脈 注射の芽 胞液濃度などに おける効果は特 出来ない。	本薬は特異 性毒性に 基づくもの によるもの	本薬は他の水 溶性脂質に過 剰の胚生性 ペルニヤの小脳 粘膜、口に過剰 な可溶性の部位 毒	本薬又は他の水 溶性脂質に過 剰の胚生性 ペルニヤの小脳 粘膜、口に過剰 な可溶性の部位 毒	初期間:外用 に適用して ある部位に は、頭部・頸部 の発熱はで きるが、少量 の頭部に限 ることもある こと。頭部に 発熱する場合の 対応:頭部の 発熱は、頭部 の汗を吸い、水 を用いて頭部 を拭き、頭部 にアルカリ土 金属、銀 、ヨウ素等が 存在する場合、 蒸らすことが あるので注意。	初期間:外用 に適用して ある部位に は、頭部・頸部 の発熱はで きるが、少量 の頭部に限 ることもある こと。頭部に 発熱する場合の 対応:頭部の 発熱は、頭部 の汗を吸い、水 を用いて頭部 を拭き、頭部 にアルカリ土 金属、銀 、ヨウ素等が 存在する場合、 蒸らすことが あるので注意。	初期間:外用 に適用して ある部位に は、頭部・頸部 の発熱はで きるが、少量 の頭部に限 ることもある こと。頭部に 発熱する場合の 対応:頭部の 発熱は、頭部 の汗を吸い、水 を用いて頭部 を拭き、頭部 にアルカリ土 金属、銀 、ヨウ素等が 存在する場合、 蒸らすことが あるので注意。	初期間:外用 に適用して ある部位に は、頭部・頸部 の発熱はで きるが、少量 の頭部に限 ることもある こと。頭部に 発熱する場合の 対応:頭部の 発熱は、頭部 の汗を吸い、水 を用いて頭部 を拭き、頭部 にアルカリ土 金属、銀 、ヨウ素等が 存在する場合、 蒸らすことが あるので注意。	初期間:外用 に適用して ある部位に は、頭部・頸部 の発熱はで きるが、少量 の頭部に限 ることもある こと。頭部に 発熱する場合の 対応:頭部の 発熱は、頭部 の汗を吸い、水 を用いて頭部 を拭き、頭部 にアルカリ土 金属、銀 、ヨウ素等が 存在する場合、 蒸らすことが あるので注意。
ヨウ化カリウ ム	内服のみ									

ワークシート№34

（特殊絆創膏を含む）

製品群No. 54

ノーナンバー

殺菌消毒薬(特殊絆創膏を含む)

製品群No. 54

ワケシートNo.34

リスクの程度 の評価	A 素理作用 B 相互作用	C 直能な副作用のおそれ るべき副作用のおそれ	D 運用のおそれ それ	E 優等骨氣(抗生素、治療状況等) (重篤な副作用につながるおそれ)	F 効能効果(症状の悪化 につながるおそれ)	G 使用方法(優使用のおそれ)	H スイッチ 化等に伴う 使用環境の 変化
評価の根点	薬理作用 併用注意 併用禁忌(他の 薬との併用に より血栓性凝 固が発生する おそれ)	直能な副作用のおそれ べき副作用のおそれ 並用注意	直能でないが、注意すべ く副作用のおそれ 並用注意	薬理効果に基づく 薬理特性 (必ず以上仰記の 場合、悪化のおそれ)	薬理効果に基づく 薬理特性 (必ず以上仰記の 場合、悪化のおそれ)	使用方法(優使用のおそれ) 等に伴う使 用環境の変 化	機能效果
局所感染 成分	ヘリコバク タン	薬理作用 併用注意 併用禁忌(他の 薬との併用に より血栓性凝 固が発生する おそれ)	直能でないが、注意すべ く副作用のおそれ 並用注意	直能でないが、注意すべ く副作用のおそれ 並用注意	直能でないが、注意すべ く副作用のおそれ 並用注意	直能でないが、注意すべ く副作用のおそれ 並用注意	直能でないが、注意すべ く副作用のおそれ 並用注意
局所感染 成分	ヘリコバク タン	薬理作用 併用注意 併用禁忌(他の 薬との併用に より血栓性凝 固が発生する おそれ)	直能でないが、注意すべ く副作用のおそれ 並用注意	直能でないが、注意すべ く副作用のおそれ 並用注意	直能でないが、注意すべ く副作用のおそれ 並用注意	直能でないが、注意すべ く副作用のおそれ 並用注意	直能でないが、注意すべ く副作用のおそれ 並用注意

(特殊貯蔵毒素を含む)

品群No. 54

リシンの程度 の評価	A. 素作用 B. 相互作用	C. 重複的な副作用 (重複的な作用用に より生じる場合 が発生する 場合)	D. 調用のおそれ C. 薬薬ではないが、注意 すべき副作用のおそれ (重複的な副作用 につながるおそれ)	F. 効能効果(症状の悪化 につながるおそれ)		G. 途用方法(個別差別のそれ)	H. スイッチ化等 に伴う使用環境の 変化
				併用禁忌(他の 薬との併用に より重複的な問 題が発生する 場合)	併用注意		
脳所障害成分	薬理作用	相互作用	直側な副作用のおそれ	薬理・毒性に 基づくもの によるもの	薬理・毒性に 基づくもの によるもの	薬理に基づく 通応禁忌	スイッチ化等 に伴う使用 環境の変化
血管取締成分	0.05%ブリヂ ン	0.05%ブリヂ ン	・頭度不明(過 敏性等の感覚 異常)	・頭度不明(感 覚異常)	・頭度不明(感 覚異常)	・頭度不明(感 覚異常)	通常、脱入眠症内には、「工事道の脇狭 回2~4滴を1日回回回回回回回回回回回 頭・脚等には1回1~2ml。血・尿液等 を1日頭回回回回回回回回回回回回回 する。なお、半筋、足筋に 頭回回回回回回回回回回回回回回回 する。局所麻酔用の効 用回回回回回回回回回回回回回 する。」と記載される。
血管取締成分	α-アドレ ナジン	α-アドレ ナジン	・頭度不明(過 敏性等の感覚 異常)	・頭度不明(過 敏性等の感覚 異常)	・頭度不明(過 敏性等の感覚 異常)	・頭度不明(過 敏性等の感覚 異常)	通常、脱入眠症内には、「工事道の脇狭 回2~4滴を1日回回回回回回回回回 頭・脚等には1回1~2ml。血・尿液等 を1日頭回回回回回回回回回 する。なお、半筋、足筋に 頭回回回回回回回回回 する。局所麻酔用の効 用回回回回回回回回回 する。」と記載される。
血管取締成分	マロニエ管状 上界	マロニエ管状 上界	・頭度不明(過 敏性等の感覚 異常)	・頭度不明(過 敏性等の感覚 異常)	・頭度不明(過 敏性等の感覚 異常)	・頭度不明(過 敏性等の感覚 異常)	通常、脱入眠症内には、「工事道の脇狭 回2~4滴を1日回回回回回回回 頭・脚等には1回1~2ml。血・尿液等 を1日頭回回回回回回回 する。なお、半筋、足筋に 頭回回回回回回回 する。局所麻酔用の効 用回回回回回回回 する。」と記載される。

（特殊絆創膏を含む）

群品圖 No. 54

しもやけ・あかぎれ用薬

製品群No. 55

ワークシートNo.35

リスクの程度 の評価	A 薬理作用	B 相互作用	C 異常な副作用のおそれ	D 薬用のおべき副作用のおそれ	E 患者背景(既往歴、治療状況等) (重篤な副作用につながるおそれ)	F 効能・効果(症状の悪化) につながるおそれ	G 飲用方法(飲食用のおそれ)
障壁の視点	薬理作用	併用注意	重篤な副作用のおそれ 禁用症性に特異体质・アレルギー等によるもの	重篤ではないが、注意すべく避難薬 禁忌症性に特異体质・アレルギー等によるもの	重篤な副作用の抑制 に注意する薬	重篤な副作用の抑制 に注意する薬	H スイッチ等に伴う使用環境の変化
血行促進成分	静脉コフェロール トウガラシニコテン酸ペニシル	外用ないの で、ユベラジンキを使用	微小循環系の障害作用を有し、末梢血管を拡張する。腫瘍細胞との併用により強大な腫瘍抑制がある。	重篤ではないが、注意すべく避難薬 禁忌症性に特異体质・アレルギー等によるもの	重篤ではないが、注意すべく避難薬 禁忌症性に特異体质・アレルギー等によるもの	重篤な副作用の抑制 に注意する薬	スイッチ等に伴う使用環境の変化
角質軟化・皮膚保湿成分	オリブ油 グリセリン	皮膚保湿・軟膏として 潤剤用液として	皮膚保湿・軟膏として 潤剤用液として	重篤ではないが、注意すべく避難薬 禁忌症性に特異体质・アレルギー等によるもの	重篤ではないが、注意すべく避難薬 禁忌症性に特異体质・アレルギー等によるもの	重篤な副作用の抑制 に注意する薬	スイッチ等に伴う使用環境の変化
ビタミンA	ビタミンA	モルモットの 角質軟化症に対する実験において、表皮の新陳代謝を高め、ケラチン形成を抑制することにより角質化症を改善することが認められている。	モルモットの 角質軟化症に対する実験において、表皮の新陳代謝を高め、ケラチン形成を抑制することにより角質化症を改善することが認められている。	重篤ではないが、注意すべく避難薬 禁忌症性に特異体质・アレルギー等によるもの	重篤ではないが、注意すべく避難薬 禁忌症性に特異体质・アレルギー等によるもの	重篤な副作用の抑制 に注意する薬	スイッチ等に伴う使用環境の変化
ワセリン	黄色ワセリン	局方からある黄色、白色ワセリンと同じである。	局方からある黄色、白色ワセリンと同じである。	重篤ではないが、注意すべく避難薬 禁忌症性に特異体质・アレルギー等によるもの	重篤ではないが、注意すべく避難薬 禁忌症性に特異体质・アレルギー等によるもの	重篤な副作用の抑制 に注意する薬	スイッチ等に伴う使用環境の変化

しもやけ・あかぎれ用薬

製品群 No. 55

ワークシートNo.35

リスクの程度 の評価	A 薬理作用 B 相互作用	C 重複な副作用のそれ すべき副作用のそれが おそれ	D 滥用のお それ	E 重量骨量(既往歴、治療歴が併存する場合に重複な副作用がおそれ)	F 効能が異常状態がおそれ につながるおそれ	G 使用方法(他の用法とそれ の併用)	H スイッチ 等に伴う性 能の変化
評価のポイント	薬理作用	薬理作用 併用禁忌(他の 薬との併用に より重大な問 題が発生する おそれ)	併用注意	重複な副作用のそれ を副作用のおそれ に基づくもの	薬理毒性に特異体質・ア レルギー等 に基づくもの	薬理毒性 (投与・発現のそ れ)	重複性 に伴う性 能の変化
白百ワセリ ン(局方か ら) プロペト	局方から中 性で、刺激性 がほとんどな く響きがあり、 粘膜をあわせ ます。動物性皮 膚のように光 つて触感す ることが少な い安定な膏 です。白色ワセ リンをさらに 胎色(たべいろ) で本質的に 相違はない。	重複でないが、注意すべ き副作用のおそれ を副作用のおそれ に基づくもの	重複でないが、注意すべ き副作用のおそれ を副作用のおそれ に基づくもの	重複でないが、注意すべ き副作用のおそれ を副作用のおそれ に基づくもの	重複でないが、注意すべ き副作用のおそれ を副作用のおそれ に基づくもの	重複でないが、注意すべ き副作用のおそれ を副作用のおそれ に基づくもの	重複でないが、注意すべ き副作用のおそれ を副作用のおそれ に基づくもの
重複ジフエン ヒドラミン	外因性なし ジフェニド ラミンは主に皮 膚に吸収する モノアミン コーカイン コ	アルギン酸 塗布または皮 膚に注入した 内注射したと きに酸による 尿素などのア ルギー性反応 は、本剤の回復 により抑制され る。	頻度不明(確 定)	通常、症状によ り直ちに発現す る。	通常、症状によ り直ちに発現す る。	通常、症状によ り直ちに発現す る。	通常、症状によ り直ちに発現す る。

しもやけ・あかぎれ用薬

製品群No. 55

ワークシートNo.35

リスクの程度 の評価	A 素理作用	B 相互作用	C 重要な副作用のそれ すべき副作用のおそれ	D 服用のお それ	E 重要な副作用につながるおそれ	F 効能・効果(症状の悪化 につながるおそれ)	G 使用方法(服使用のそれ)	H スイッチ 化等に伴う 使用環境の 変化
評価の視点	素理作用	相互作用	重要な副作用の点それ、 併用禁忌(併用に より重大な問題 が発生する おそれ)	重要な副作用の点それ、 併用注意(併用に より重大な問題 が発生する おそれ)	重要な副作用の点それ、 併用注意(併用に より重大な問題 が発生する おそれ)	重要度に基づく 順位表記	重要度に基づく 順位表記	スイッチ化 等に伴う使 用環境の変 化
抗炎症成分	クリチルレチ ン酸膏		クリチルレチ ン酸は急性 炎症に対する 抗炎症作用 (理屈抑制一 ラット、肉芽 抑制抑制ラッ ト、抗紅斑モ モット)を有 する。抗炎症 作用は主成 分であるクリ チルテナン酸 がハイドロ コチニンの 化学構造に 類似している と推定され る。			頻度不明(確 定)	頻度不明(確 定)	温熱、皮膚を! 湿疹、皮膚炎 を!発生、神経炎 を!

藥用疾患化膿

製品群No. 56

ワーキングシートN.36						
製品群番号. 56			化膿性疾患用薬			
リスクの程度 の評価	A 薬理作用 B 特徴作用	C 重篤な副作用のおそれ	D 滅用のおそれ べき副作用のおそれ	E 患者背景(既往歴、治療状況等) (薬剤的な副作用につながるおそれ)	F 効能・効果(症状のおそれ) につながるおそれ	G 災用方法(誤飲用のおそれ)
評価の観点	薬理作用 相互作用	重篤な副作用のおそれ	重篤な副作用のおそれ	重篤な副作用のおそれ	重篤な副作用のおそれ	重篤な副作用のおそれ
抗菌成分(サルファム)	併用禁忌(他の併用に伴う重篤な副作用が発生するおそれ)	併用注意	併用注意	併用注意	併用注意	併用注意
スルファミジン	抗菌作用:グラム陽性菌、 陰性菌に広く作用。抗腎力 サルファム(サイアシン)で使用 アルファジアンとほぼ等しい。	特異体質性に 薬理毒性に 惹くもの	特異体質性に 薬理毒性に 惹くもの	薬理毒性に 惹くもの	薬理毒性に 惹くもの	薬理毒性に 惹くもの
スルファミジン	医療用医薬品として不適 スルファミジンは、皮膚 の細胞感染による 原因となる ブドウ球菌(MIC: 3 μg/ml), 大腸 菌(MIC: 3 μg/ml)等に抗 菌力を示す。	スルファミジンは、皮膚 の細胞感染による 原因となる ブドウ球菌(MIC: 3 μg/ml), 大腸 菌(MIC: 3 μg/ml)等に抗 菌力を示す。	頻度不明(確 定症)	頻度不明(確 定症)	頻度不明(確 定症)	頻度不明(確 定症)
ホモスルファミジン	配合剤のみ					
抗菌成分	サリチル酸	食管溶解作用 細胞間基質を溶解し膚 層の細胞を保護して角質 層を軟化させて角質 層を軟化させる作用 脂肪作用。微生物(白色 菌など)に対する活性 があり、その防護力、石炭 酸に匹敵する。	頻度不明(確 定症)	頻度不明(確 定症)	頻度不明(確 定症)	頻度不明(確 定症)

製品群 No. 56

ワークシートNo.36

化膿性疾患用薬

ワクの程度 の評価	A.薬理作用	B.相互作用	C.重篤な副作用のおそれ すべき副作用のおそれ	D.患者側(既往歴、治療状況等) 重篤な副作用についておそれ	E.患者側(既往歴、治療状況等) 重篤な副作用のおそれ	F.效能・効果(主状の悪化 につながるおそれ)	G.使用方法(誤使用のおそれ)	H.スイッチ 化等に伴う 使用環境の変化
評価の観点	薬理作用	相互作用	重篤な副作用のおそれ	薦めではないが、注意すべき副作用のおそれ	薦めないより酵素のそれ。 耳鳴・悪化のそれ。	重篤な副作用の判定 基づくもの ※理・毒性に特異体质アレルギーによるもの	薦めないより酵素の判定 基づくもの ※理・毒性に特異体质アレルギーによるもの	スイッチ化 等に伴う使 用環境の変 化
薬成分	塩酸クロロヘキシンジン キシソル	併用禁忌(他 生物との併用に よる重大な問 題が発生する おそれ)	抗菌作用(in vitro試験) ・広範囲の微 生物に対する 活性、グラム陽 性菌には低 濃度でも迅速 な殺菌作用を 示す。 ・グラム陰性 菌には比較的 低い濃度で 殺菌作用を 示すが、グラ ム陽性菌に 比べ抗菌力 に幅がみられ る。 ・芽胞形成菌 の芽胞には 効力が示さ ない。 ・絆創膏に對 して水溶液で は静菌作用 を示し、アル コール溶液で は迅速な殺 菌作用を示 す。真菌類の多 くに拮抗力を 示すが、全般 的に拮抗力は 弱い。 ・アルカリに 対する効力は は強度でない。	併用禁忌 ※理・毒性に 特異体质ア レルギーによ るもの	薦めないより酵素の判定 基づくもの ※理・毒性に 特異体质ア レルギーによ るもの	・クロルヘキシンジン、氯物過酸化水素 の既往歴 耳鳴、耳(内 耳)、中耳、外耳 耳、中耳炎及び中耳 神経に於ける感染 症候群に於ける場合に は、 ・神經に対する直接 作用、神經障害を 来たす。(心拍 停止、口脚等 の括膜面(シラウ ケ)の粘膜が吸 引されていて いる。) ・舌、喉頭、外陰部 の済瘻等、 ・治療器用 (膀胱、外性器 等)には使用 しない。	・クロルヘキシンジン、氯物過酸化水素 の既往歴 耳鳴、耳(内 耳)、中耳、外耳 耳、中耳炎及び中耳 神経に於ける感染 症候群に於ける場合に は、 ・神經に対する直接 作用、神經障害を 来たす。(心拍 停止、口脚等 の括膜面(シラウ ケ)の粘膜が吸 引されていて いる。) ・舌、喉頭、外陰部 の済瘻等、 ・治療器用 (膀胱、外性器 等)には使用 しない。	スイッチ化 等に伴う使 用環境の変 化
抗 菌 成 分	ヒドロキシ エチルメタ セタミン 成分	外用薬(既 往歴等に あるおそれ)	アレルギーを 有するには反 応が起こる能 性、皮膚等のア レルギー性反応は、本 剤により説明に は強度でない。	・重篤な過敏 反応が外用時 に見られる。 ・重篤な過敏 反応が外用時 に見られる。	・重篤な過敏 反応が外用時 に見られる。 ・重篤な過敏 反応が外用時 に見られる。	・重篤な過敏 反応が外用時 に見られる。 ・重篤な過敏 反応が外用時 に見られる。	・重篤な過敏 反応が外用時 に見られる。 ・重篤な過敏 反応が外用時 に見られる。	・重篤な過敏 反応が外用時 に見られる。 ・重篤な過敏 反応が外用時 に見られる。

化膿性疾患用薬

製品群No. 56

ワークシートNo.36

リスクの程度 の評価	A 素理作用	B 相互作用	C 重篤な副作用のおそれ すべき副作用のおそれ	D 薬用のおそれ それ	E 薬者背景(既往歴、治療状況等) (重篤な副作用につがらぬそれ)	F 効能効果(症状の悪化) につながらぬそれ	G 使用方法(飼用のおそれ)	H スイッチ 化等に伴う 変更環境の 変更
評価の視点	素理作用	相互作用	重篤な副作用のおそれ	重篤な副作用のおそれ 特異性に特異本質・アレルギー等によるもの	重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ 素理・毒性に基づくもの	重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ 特異本質・アレルギー等によるもの	重篤な対象の使用量に上り障害の原因には生じる理屈を誤るおそれ	スイッチ化等に伴う他の環境の変化
評価	日本製高方 イオウ	日本製高方 イオウ	表面でも皮膚 に優れた柔軟性 やボリチオン テオノンとなり 抗菌作用を 発揮する。また 皮膚に接 触があるとい われるが主に S-SIに変わ ることによつ て角質化す る。	本剤は皮膚に接 触すると皮膚 表面が剥離され て皮膚が損傷さ れる。中等症 度になると皮 膚表面が剥離さ れ、皮膚表面が 剥離する。	本剤は皮膚に接 触すると皮膚 表面が剥離され て皮膚が損傷さ れる。中等症 度になると皮 膚表面が剥離さ れ、皮膚表面が 剥離する。	本剤は皮膚に接 触すると皮膚 表面が剥離され て皮膚が損傷さ れる。中等症 度になると皮 膚表面が剥離さ れ、皮膚表面が 剥離する。	通常3~10%の溶液、 1日1~2回薬液を患部に 塗布する。	疥癬状 態等又はローションとして 1日1~2回薬液を患部に 塗布する。
菌成分	イソプロピル エチルフェ ノールを 使用	本剤は皮膚に接 触すると皮膚 表面が剥離され て皮膚が損傷さ れる。中等症 度になると皮 膚表面が剥離さ れ、皮膚表面が 剥離する。	本剤は皮膚に接 触すると皮膚 表面が剥離され て皮膚が損傷さ れる。中等症 度になると皮 膚表面が剥離さ れ、皮膚表面が 剥離する。	本剤は皮膚に接 触すると皮膚 表面が剥離され て皮膚が損傷さ れる。中等症 度になると皮 膚表面が剥離さ れ、皮膚表面が 剥離する。	本剤は皮膚に接 触すると皮膚 表面が剥離され て皮膚が損傷さ れる。中等症 度になると皮 膚表面が剥離さ れ、皮膚表面が 剥離する。	本剤は皮膚に接 触すると皮膚 表面が剥離され て皮膚が損傷さ れる。中等症 度になると皮 膚表面が剥離さ れ、皮膚表面が 剥離する。	疥癬状 態等又はローションとして 1日1~2回薬液を患部に 塗布する。	疥癬状 態等又はローションとして 1日1~2回薬液を患部に 塗布する。

藥用疾患化膿性

製品群No. 56

リスクの程度 の評価	A 素理作用	B 微作用	C 重複な副作用のおそれ	D 聲帶・咽頭・喉頭等の呼吸器系疾患(呼吸困難、喘息状況等) (重複的な副作用につながるもの)	E 効能効果(副作用のおそれ)	F 効能効果(副作用のおそれ)	G 使用方法(係使用のおそれ)	H スイッチ化等に伴う使 用環境の変 化
評価の視点								
作用機序(他 薬との併用に より重大な問 題が発生する おそれ)	相乗作用	併用注意	重複な副作用のおそれ	重複性毒性に特異体質-ア レルギー等によるもの	重複でない 副作用(例) 頻度不明(過 敏症)	重複性毒性に特異体質-ア レルギー等によるもの	過度に頻度を要 する場合(例) 頻度不明(過 敏症)	手術部位の 消毒(手術の皮膚 等)の消毒 用具の消 毒
ノルマール	消毒用エタ ノール	消毒用エタ ノール<や ハーン>	本剤は、使用 温度において 余剰性細菌 (グラム陽性 菌、グラム陰 性菌、酵母 菌、ウイルス 等)に対する 抑制力があるが、芽 胞形成菌、 産毒菌(黒糞菌等) 及び一部の ウイルスに対する 殺菌効 果は期待でき ない。エタノ ールの殺菌力 上の優越性 は、その底限 法(ヒト)- 一定しないが、 してよく、この は皮膚に對し て抗酸化及び 保水作用を強 めることも ある。	重複でない 副作用(例) 頻度不明(過 敏症)	重複でない 副作用(例) 頻度不明(過 敏症)	同一部位に 反復使用する 場合は、 器具等によ る皮膚擦れ を起こす可 能がある。 急性腎炎、マロ リーフィング症候 群、口渴、利尿、 発熱、腹痛、嘔 吐、腹膜炎、 心下痛、多汗感、 頭痛、歩行困難、 急性アルコール 中毒、アラカルテ、 脱水、体温低下、 脱水、失禁、肝 機能障害、呼吸 抑制、意識混濁、 血中濃度が0.1 mg/L以上で止 血で呼吸停止が起 る。催吐剤と Gの同時服用や頭 部外傷の合併に も注意する。	同一部位に 過度に頻度を要 する場合(例) 過度に頻度を要 する場合(例) 過度に頻度を要 する場合(例)	手術部位の 消毒(手術の皮膚 等)の消毒 用具の消 毒
レソルシン	レソルシン 「鶴生」	レソルシン は、石炭酸ヒ アルに由来する が、作用分 子数の多さは 3である。 局所的-タ ンパク質作用用 を有し、また 角質溶解作 用も有する。	頻度不明(過 敏症)	頻度不明(過 敏症)	本剤に於ける 他の既存のある 副作用: 毛細 血管等、胃腸 管、直腸管等 の粘膜炎 性皮膚炎 性皮膚炎 水痘等の臨 床症状 ・耳切兒発 現(二度性 現)	2~5%の飲食、水溶液又 はローションとして、通常 を1日1~2回塗布する。		
表面活性 成分								表面活性 成分はく離 液解性又 いる。脂膜性 被膜、導常性 乾燥、妊娠性 脱毛症 表面活性 成分には 長期間使用 されると 皮膚が乾燥し て、皮膚の表面 には脂膜性 被膜が付着す ること。 毛髪の毛根部 セグロヒジン血 球の外側に付 着してから使 用すること。 ある。

藥用患性疾病化膿

制品种群No. 56

化膿性疾患用薬

製品群N_o. 56

ワークシートN_o. 36

リスクの程度 の評価	A 薬理作用 B 相互作用	C 薔薇な副作用のおそれ D 滲用のおそれ E 動物試験 F 効能・効果(症状の悪化) につながるおそれ	G 使用方法(徹底用のおそれ)	H スイッチ 化等に伴う使 用環境の変 化
評価の視点	薬理作用 併用禁忌(他の より重大な問 おそれ)	薔薇な副作用のおそれ 薬理・毒性に 係るもの によるもの	薔薇な対象の 症状(性別・年 令・部位・状態 によるもの)	スイッチ 化等に伴う使 用環境の変 化
※角質 質化成 分	サリチル酸	角質層細胞間基 質を溶解し膚 膜を促進して角質 細胞を軟化さ せる作用。 生物白せん 菌類などに 対して抗菌性 があり、その 防腐力も強 い。	頻度不明(過 敏症)	1.会員・会員 ・会員の角質 層を剥離する 2.乾燥・白斑 (頭部)又は 白色乾燥、角 色角質、先天 性角質病、毛 天性手足足 角化症(頭部), ダリエ症、過 山道症は抗 化症(尋常性 角化症)とし て2~10%
※角質 質化成 分	レゾルシン	同じく殺菌作 用があるが、 作用の強さは 石炭酸の1/3 である。よん 属所的に、よん を剥離する作用 も有する。	頻度不明(過 敏症)	1.会員・会員 ・会員の角質 層を剥離する 2.乾燥・白斑 (頭部)又は 白色乾燥、角 色角質、先天 性角質病、毛 天性手足足 角化症(頭部), ダリエ症、過 山道症は抗 化症(尋常性 角化症)とし て2~10%
※殺菌成 分、角質軟化成 分				

製品群 No. 57

鎮痛・鎮痒・収れん・消炎薬(ハッピング剤を含む)

ワークシートNo.37

リスクの程度 の評価	A 療理作用 B 相互作用	C 重篤な副作用のおそれ すべき副作用のおそれ	D 運用のお じめ重篤な副作用につながるおそれ	E 効能効果 ににつながるおそれ	F 効能・効果(症状の悪化等に伴う 副作用のないおそれ)	G 使用方法(副作用のおそれ)	H スイッチ 等に伴う 使用環境の 変化
評価の根拠 外用軟膏 炎症・炎症成分	療理作用 相互作用 併用禁忌(他の 剤との併用に より重大な問 題が発生する おそれ)	重篤な副作用のおそれ 基礎毒性に に基づくもの 重篤な副作用のおそれ 特異体质アレルギー等 によるもの	重篤な副作用のおそれ 基礎毒性に に基づくもの 重篤な副作用のおそれ 基礎毒性に に基づくもの	重篤な副作用のおそれ 基礎毒性に に基づくもの 重篤な副作用のおそれ 基礎毒性に に基づくもの	重篤な副作用のおそれ 基礎毒性に に基づくもの 重篤な副作用のおそれ 基礎毒性に に基づくもの	重篤な副作用のおそれ 基礎毒性に に基づくもの 重篤な副作用のおそれ 基礎毒性に に基づくもの	重篤な副作用のおそれ 基礎毒性に に基づくもの 重篤な副作用のおそれ 基礎毒性に に基づくもの
抗イソジン軟膏 炎症成分	抗 炎症作用 抗 炎症作用を 有する。急性炎 症・慢性炎 症に対する効 力を示す。	抗 炎症作用 抗 炎症作用に よるもの	抗 炎症作用 抗 炎症作用に よるもの	抗 炎症作用 抗 炎症作用に よるもの	抗 炎症作用 抗 炎症作用に よるもの	抗 炎症作用 抗 炎症作用に よるもの	抗 炎症作用 抗 炎症作用に よるもの
カトレップ 貼付剤	抗 炎症作用 抗 炎症作用を 有する。急性炎 症・慢性炎 症に対する効 力を示す。	抗 炎症作用 抗 炎症作用に よるもの	抗 炎症作用 抗 炎症作用に よるもの	抗 炎症作用 抗 炎症作用に よるもの	抗 炎症作用 抗 炎症作用に よるもの	抗 炎症作用 抗 炎症作用に よるもの	抗 炎症作用 抗 炎症作用に よるもの
インジンタジ ン貼付剤 外用液	抗 炎症作用 抗 炎症作用を 有する。急性炎 症・慢性炎 症に対する効 力を示す。	抗 炎症作用 抗 炎症作用に よるもの	抗 炎症作用 抗 炎症作用に よるもの	抗 炎症作用 抗 炎症作用に よるもの	抗 炎症作用 抗 炎症作用に よるもの	抗 炎症作用 抗 炎症作用に よるもの	抗 炎症作用 抗 炎症作用に よるもの
グリチルリチ ン軟 外用液	抗 炎症作用 抗 炎症作用を 有する。急性炎 症・慢性炎 症に対する効 力を示す。	抗 炎症作用 抗 炎症作用に よるもの	抗 炎症作用 抗 炎症作用に よるもの	抗 炎症作用 抗 炎症作用に よるもの	抗 炎症作用 抗 炎症作用に よるもの	抗 炎症作用 抗 炎症作用に よるもの	抗 炎症作用 抗 炎症作用に よるもの
グリチルリチ ン軟 内用液	抗 炎症作用 抗 炎症作用を 有する。浮腫抑制、 肉芽腫抑制、 抗紅斑	抗 炎症作用 抗 炎症作用に よるもの	抗 炎症作用 抗 炎症作用に よるもの	抗 炎症作用 抗 炎症作用に よるもの	抗 炎症作用 抗 炎症作用に よるもの	抗 炎症作用 抗 炎症作用に よるもの	抗 炎症作用 抗 炎症作用に よるもの

鎮痛・鎮痙・収れん・消炎薬(ハッパ)剤を含む)

製品群No. 57

ワーカシートNo.37

リスクの程度 の評価	A 薬理作用	B 相互作用	C 重複的な副作用のおそれ すべて副作用のおそれ	D 運用のお それ	E 重複的な副作用のおそれ につけたがるるもの	F 效能・効果(症状の悪化) につながるるもの	G 使用方法(副作用のおそれ)
評価の視点	薬理作用	相互作用 併用禁忌(他の 薬剤より重複する 場合)	重複的な副作用のおそれ 重複する副作用 を副作用のおそれ	薬理作用 重複する副作用 を副作用のおそれ	重複する副作用 を副作用のおそれ	重複する副作用 を副作用のおそれ	重複する副作用 を副作用のおそれ
ケトプロフェン	メナミン酸脳 後発品なし	急性炎症・特 徴性炎症・持 続性炎症に対する抗炎、鎮 痛作用を有す る	重複する副作用 を副作用のおそれ	併用注意 併用注意(他 の併用薬に より重複する 場合)	本剤又は本剤の 成分に対する過敏 症(アスピリシン等の 乳酸等、新生児、乳 児、幼児又は小 児、慢性疾患 アスピリシン、フェ ノキシブロフェン、フェ ノキシベンゾン等に による過敏症)	本剤又は本剤の 成分に対する過敏 症(アスピリシン等の 乳酸等、新生児、乳 児、幼児又は小 児、慢性疾患 アスピリシン、フェ ノキシブロフェン、フェ ノキシベンゾン等に による過敏症)	重複する副作用 を副作用のおそれ
ケトプロフェン	モース(貼 付剤)	急性炎症・持 続性炎症に対する抗炎、鎮 痛作用を有す る	重複する副作用 を副作用のおそれ	併用注意 併用注意(他 の併用薬に より重複する 場合)	本剤又は本剤の 成分に対する過敏 症(アスピリシン等の 乳酸等、新生児、乳 児、幼児又は小 児、慢性疾患 アスピリシン、フェ ノキシブロフェン、フェ ノキシベンゾン等に による過敏症)	本剤又は本剤の 成分に対する過敏 症(アスピリシン等の 乳酸等、新生児、乳 児、幼児又は小 児、慢性疾患 アスピリシン、フェ ノキシブロフェン、フェ ノキシベンゾン等に による過敏症)	重複する副作用 を副作用のおそれ
ケトプロフェン	セクターロー ーション	急性炎症・持 続性炎症に対する抗炎、鎮 痛作用を有す る	重複する副作用 を副作用のおそれ	併用注意 併用注意(他 の併用薬に より重複する 場合)	本剤又は本剤の 成分に対する過敏 症(アスピリシン等の 乳酸等、新生児、乳 児、幼児又は小 児、慢性疾患 アスピリシン、フェ ノキシブロフェン、フェ ノキシベンゾン等に による過敏症)	本剤又は本剤の 成分に対する過敏 症(アスピリシン等の 乳酸等、新生児、乳 児、幼児又は小 児、慢性疾患 アスピリシン、フェ ノキシブロフェン、フェ ノキシベンゾン等に による過敏症)	重複する副作用 を副作用のおそれ
サリル酸カリ リコール	配合のみ					本剤の成分による 過敏症	本品の重複する 副作用
	カリル酸 チル	カリル酸 チル(ミヤ ザワ)	カリル酸 チル(ミヤ ザワ)			0.1~1%未 満(参考:皮膚 試験)	0.1~1%未 満(参考:皮膚 試験)
	カリル酸 チル	カリル酸 チル(ミヤ ザワ)	カリル酸 チル(ミヤ ザワ)			0.1~1%未 満(参考:皮膚 試験)	0.1~1%未 満(参考:皮膚 試験)

リスクの評価 の評価	A 薬理作用	B 相互作用	C 薬理作用のおそれ すべき副作用のおそれ	D 併用のおそれ 併用禁忌他	E 重篤な副作用のおそれ 併用副作用に より重大な問題 が発生するおそれ	F 効能効果(症状の悪化 につながるおそれ)	G 使用方法(使用用法のおそれ)	H シンチ 化等に伴う 使用環境の 変化	
								重篤ではないが、注意 すべき副作用のおそれ	重篤ではないが、注意 すべき副作用のおそれ
フェルビナク 軟膏 貼付剤	薬理作用	相互通作	重篤な副作用のおそれ 併用副作用に より重大な問題 が発生するおそれ	重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ	重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ	重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ	重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ	重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ	重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ
ナバゲルン 軟膏	プロスタンダラ ンジン生合成分 抑制作用を 有し、炎症・ 急性炎症に対 し、鎮痛が 炎症作用を 示す。	プロスタンダラ ンジン生合成分 抑制作用を 有し、炎症・ 急性炎症に対 し、鎮痛が 炎症作用を 示す。	プロスタンダラ ンジン生合成分 抑制作用を 有し、炎症・ 急性炎症に対 し、鎮痛が 炎症作用を 示す。	0.1%未満 (0.05%未満) 皮膚炎、接触 性皮膚炎、水 疱)	0.1%未満 (0.05%未満) 皮膚炎、接触 性皮膚炎、水 疱)	0.1%未満 (0.05%未満) 皮膚炎、接触 性皮膚炎、水 疱)	0.1%未満 (0.05%未満) 皮膚炎、接触 性皮膚炎、水 疱)	0.1%未満 (0.05%未満) 皮膚炎、接触 性皮膚炎、水 疱)	0.1%未満 (0.05%未満) 皮膚炎、接触 性皮膚炎、水 疱)
セルタッヂ 貼付剤	プロスタンダラ ンジン生合成分 抑制作用を 有し、炎症・ 急性炎症に対 し、鎮痛が 炎症作用を 示す。	プロスタンダラ ンジン生合成分 抑制作用を 有し、炎症・ 急性炎症に対 し、鎮痛が 炎症作用を 示す。	プロスタンダラ ンジン生合成分 抑制作用を 有し、炎症・ 急性炎症に対 し、鎮痛が 炎症作用を 示す。	0.1%未満 (0.05%未満) 皮膚炎、接触 性皮膚炎、水 疱)	0.1%未満 (0.05%未満) 皮膚炎、接触 性皮膚炎、水 疱)	0.1%未満 (0.05%未満) 皮膚炎、接触 性皮膚炎、水 疱)	0.1%未満 (0.05%未満) 皮膚炎、接触 性皮膚炎、水 疱)	0.1%未満 (0.05%未満) 皮膚炎、接触 性皮膚炎、水 疱)	0.1%未満 (0.05%未満) 皮膚炎、接触 性皮膚炎、水 疱)
ナバゲルン ローション	プロスタンダラ ンジン生合成分 抑制作用を 有し、炎症・ 急性炎症に対 し、鎮痛が 炎症作用を 示す。	プロスタンダラ ンジン生合成分 抑制作用を 有し、炎症・ 急性炎症に対 し、鎮痛が 炎症作用を 示す。	プロスタンダラ ンジン生合成分 抑制作用を 有し、炎症・ 急性炎症に対 し、鎮痛が 炎症作用を 示す。	0.1%未満 (0.05%未満) 皮膚炎、接触 性皮膚炎、水 疱)	0.1%未満 (0.05%未満) 皮膚炎、接触 性皮膚炎、水 疱)	0.1%未満 (0.05%未満) 皮膚炎、接触 性皮膚炎、水 疱)	0.1%未満 (0.05%未満) 皮膚炎、接触 性皮膚炎、水 疱)	0.1%未満 (0.05%未満) 皮膚炎、接触 性皮膚炎、水 疱)	0.1%未満 (0.05%未満) 皮膚炎、接触 性皮膚炎、水 疱)
カントール 内服のみ	後発品の添 付文書を用 いた	後発品の添 付文書を用 いた	後発品の添 付文書を用 いた	後発品の添 付文書を用 いた	後発品の添 付文書を用 いた	後発品の添 付文書を用 いた	後発品の添 付文書を用 いた	後発品の添 付文書を用 いた	後発品の添 付文書を用 いた
テレビン油 なし	カントール 内服のみ	カントール 内服のみ	カントール 内服のみ	カントール 内服のみ	カントール 内服のみ	カントール 内服のみ	カントール 内服のみ	カントール 内服のみ	カントール 内服のみ
テレビン油 なし	カントール 内服のみ	カントール 内服のみ	カントール 内服のみ	カントール 内服のみ	カントール 内服のみ	カントール 内服のみ	カントール 内服のみ	カントール 内服のみ	カントール 内服のみ

鎮痛・鎮痙・收れん・消炎葉(ハッブ剤を含む)

製品番号No. 57

リスクの程度 評価の視点	A 楽理作用 B 相互作用	C 重複的な副作用のおそれ D 通用注意のおそれ E 重複的な副作用のおそれ F 効能効果・強度が他の製剤と異なる場合 G 通用方法(異用法)のそれ	三薬物併用(既往歴・治療状況等) (重複的な副作用にのみがおそれ)		H 効能効果・強度が他の製剤と異なる場合 I 通用方法(異用法)のそれ	J 通用方法(異用法)のそれ	K 通用方法(異用法)のそれ	L 通用方法(異用法)のそれ	M 通用方法(異用法)のそれ
			薬理作用	併用注意	薬理作用のおそれ	薬理作用のおそれ			
トウガラシエキス	トウガラシエキス	エキスがなつかつて代用をいたしません。	重複的な副作用のおそれ 併用注意	重複的な副作用のおそれ 併用注意	重複的な副作用のおそれ 併用注意(再発・悪化のおそれ)	重複的な副作用のおそれ 併用注意(再発・悪化のおそれ)	重複的な副作用のおそれ 併用注意(再発・悪化のおそれ)	重複的な副作用のおそれ 併用注意(再発・悪化のおそれ)	重複的な副作用のおそれ 併用注意(再発・悪化のおそれ)
ノニルワニドリ	ノニルワニドリ	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
抗ヒスタミン成分	抗ヒスタミン成分	ジフェニヒドロミダゾール	ジフェニヒドロミダゾール	なし	なし	なし	なし	なし	なし

リスクの程度 の評価	A 薬理作用 B 相互作用	C 重篤な副作用のおそれ (C: 重篤ではないが、注意 すべき副作用のおそれ)	D 運用のお それ	E 重篤な副作用のおそれ (既往歴・治療状況等) F 効能・効果・製法の選択 につながるおそれ)	G 使用方法(假想用のおそれ)		
			F 効能・効果・製法の選択 につながるおそれ)	症状の悪化 (假想用・修飾用のおそれ)	症状と (假想用・修飾用)	対象の悪化 (假想用・修飾用のおそれ)	
評価の観点	薬理作用	薬理作用	併用注意 併用禁忌他 薬との併用に より重大会ある おそれ)	薬理毒性に特異体质アレルギー等によるもの	重篤な副作用のおそれ 重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ	重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ	重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ
マレイン酸カルボラミン	外用がない がセカタク 作用	外用がない がセカタク 作用	中枢神經抑制剤・抗コリン作用 M-ACh受容体と作用相互通じる ドロキシドペプチドペプチド エビネフリン血圧の異常上昇)	薬理毒性に特異体质アレルギー等によるもの	重篤な副作用のおそれ 重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ	重篤な副作用のおそれ 重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ	重篤な副作用のおそれ 重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ
ノック	外用	外用	外用	外用	外用	外用	外用
血行改善薬 ニコチン酸ペニシル	外用透疹・皮膚炎用薬	外用透疹・皮膚炎用薬	外用	外用	外用	外用	外用

鎮痛・鎮痙・収れん・消炎葉(ノバップ剤)を含む)

製品群N.57

ワーカーNo.37

リスクの程度 の評価	A 薬理作用	B 相互作用	C 重篤な副作用のおそれ すべき副作用のおそれ	D 運用のおそれ	E 悪者背景(既往歴、治療状況等) につながらるおそれ	F 効能・効果(症状の悪化 につながらるおそれ)	G 使用方法(誤使用のおそれ)	H スイッチ 化等に伴う使 用環境の変 化
評価の視点	薬理作用	併用注意	重篤な副作用のおそれ 基づくもの によるもの	薬理・養生に特異性ア レルギー等 によるもの	重篤ではないが、注意すべ き副作用のおそれ	重篤ではないが、注意すべ き副作用のおそれ	重篤ではないが、注意すべ き副作用のおそれ	通常1日1～数回、適量を 温かいお湯に溶かして服用する。また、瓶長により密封を行 う。
吉草酸群 ブリドンソロ ン	リドンクス コーワ飲料 クローショーン	局所抗炎症・作用、血管收 縮作用(筋 肉・骨・神経等の作用)	・頭頸皮膚 への使用時 眼圧亢進、白 内障	・頭頸皮膚 への使用時 眼圧亢進、白 内障	重篤ではないが、注意すべ き副作用のおそれ	重篤ではないが、注意すべ き副作用のおそれ	重篤ではないが、注意すべ き副作用のおそれ	通常1日～数回、適量を 温かいお湯に溶かして服用する。また、瓶長により密封を行 う。
ステロイド抗 炎症成分	リドンクス コーワ飲料 クローショーン	局所抗炎症・作用、血管收 縮作用(筋 肉・骨・神経等の作用)	・頭頸皮膚 への使用時 眼圧亢進、白 内障	・頭頸皮膚 への使用時 眼圧亢進、白 内障	重篤ではないが、注意すべ き副作用のおそれ	重篤ではないが、注意すべ き副作用のおそれ	重篤ではないが、注意すべ き副作用のおそれ	通常1日～数回、適量を 温かいお湯に溶かして服用する。また、瓶長により密封を行 う。